

実施学科課程表(24生以降)

経営メジャー

(令和7年度)

授業科目	単位	開講年	実施時期	基盤科目	受講可能年次	教員免許該当科目	旧カリ科目名	担当教員	ページ
経営学	2	7	前	○	2年以上	商業	経営学Ⅰ	小宮山	1
経営管理論Ⅰ	2	8	前		3年以上			松谷	
経営管理論Ⅱ	2	8	後		3年以上			松谷	
経営史	2	7	前		2年以上	商業	経営史	渡邊	2
企業論	2	7	前・集中		2年以上	商業	企業論	河野	3
経営情報論Ⅰ	2	7	前		2年以上		経営情報論Ⅰ	非(松岡)	4
経営情報論Ⅱ	2	7	後		2年以上		経営情報論Ⅱ	非(松岡)	5
経営組織論	2	7	前		2年以上	商業	経営組織論	本谷	6
流通論	2	7*	前		2年以上		流通論	松隈	7
マーケティング論	2	8*	前		3年以上		マーケティング論	松隈	
国際経営論	2	8	後		3年以上	商業	国際経営論	小宮山	
経営戦略論	2	7	前		2年以上	商業	経営戦略論	仲本	8
人的資源管理論Ⅰ	2	8	前		3年以上	商業	人事システム論Ⅰ	于	
人的資源管理論Ⅱ	2	8	後		3年以上	商業	人事システム論Ⅱ	于	
日本型経営と持続可能な発展	2	8	後		3年以上		日本型経営と持続可能な発展	于	
企業ファイナンス論	2	7	前		2年以上		企業ファイナンス論	非(鶴崎)	9
交通論Ⅰ	2	7*	前		2年以上	商業	交通論Ⅰ	大井	10
交通論Ⅱ	2	7*	後		2年以上	商業	交通論Ⅱ	大井	11
物流論Ⅰ	2	7*	前		2年以上	商業	物流概論	大井	12
物流論Ⅱ	2	7*	後		2年以上	商業	国際物流論	大井	13
観光政策論	2	7	前		2年以上	商業	地域と交通	大井	14
地域観光プロジェクト演習	4	8	後・集中		3年以上		実践経営分析論Ⅱ	大井	
サステナブル・リーダーシップ入門	2	7	前・集中	○	1年以上		アントレプレナーシップ入門	河野	15
大分のものづくりと地域づくりⅠ	2	7	後	○	1年以上		大分のものづくりと地域づくり	未定	16
製品開発論	2	7	後		2年以上	商業	製品開発論	仲本	17
市場開発論	2	7	後		2年以上		市場開発論	松隈	18
組織革新論	2	8	後		3年以上	商業	組織革新論	本谷	
研究開発マネジメント論	2	7	前・集中		2年以上	商業	研究開発マネジメント論Ⅰ	河野	19
サステナブルビジネスと起業	2	7	前		2年以上	商業	ベンチャー起業論	渡邊	20
サステナブルビジネスと実践	2	7	後		2年以上	商業	ベンチャー実践論	渡邊	21
ビジネスモデル論	2	8*	後		3年以上		ビジネスモデル論	非(松岡)	
大分のものづくりと地域づくりⅡ	2	7	後		2年以上		イノベーション科学技術論	渡邊	22
会計学Ⅰ	2	7	前	○	2年以上	商業	会計学Ⅰ	山根	23
会計学Ⅱ	2	7	後		2年以上	商業	会計学Ⅱ	山根	24
財務諸表論	2	8	前		3年以上	商業	会社会計論Ⅰ	中村	
監査論	2	8	前		3年以上		監査論Ⅱ	越智	
管理会計論	2	8	前		3年以上		管理会計論Ⅰ	大崎	
戦略的管理会計論	2	8	後		3年以上		管理会計論Ⅱ	大崎	
原価計算論Ⅰ	2	7	前		2年以上	商業	原価計算論Ⅰ	加藤	25
原価計算論Ⅱ	2	7	後		2年以上	商業	原価計算論Ⅱ	加藤	26
財務諸表分析論	2	8*	後		3年以上	商業	会計情報システム論	中村	
法人税法	2	8*	後		3年以上	商業	税務会計論	加藤	
初級簿記	2	7	後	○	1年以上	商業	初級簿記	越智・山根	27
中級簿記Ⅰ	2	7	前		2年以上		中級簿記	非(森)	28
中級簿記Ⅱ	2	7	後		2年以上		株式会社簿記	非(森)	29

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K522M201	経営学 (Management)					学部基盤科目 経営メジャー系	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2・3・4	経	前期	木1	日本語		単独							
担当教員	氏名 小宮山 知成 E-mail 内線														
授業の概要	経営学入門を受講した学生を主な対象として、経営学の基礎・発展知識と主な学説、および経営学的な思考法を修得することを目的とする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経営学における主な学説を理解し、説明できるようになること							○	○						
目標2	修得した学説を用いて、企業経営に関する現象を客観的に分析できるようになること							○	○						
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								5	5						
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	経営学とは何か														
3	組織行動論(ミクロ組織論)①:個人行動 モチベーション														
4	組織行動論(ミクロ組織論)②:集団行動 意思決定とコミュニケーション														
5	組織行動論(ミクロ組織論)③:リーダーシップと管理者行動														
6	組織理論(マクロ組織論)①:組織構造														
7	組織理論(マクロ組織論)②:組織構造の機能分析														
8	組織理論(マクロ組織論)③:組織デザイン														
9	経営戦略論①:戦略論の基礎														
10	経営戦略論②:資源戦略アプローチ														
11	経営戦略論③:ポジショニングアプローチ														
12	経営戦略論④:ゲームアプローチ														
13	経営戦略論⑤:学習アプローチ														
14	経営戦略論⑥:全社戦略(ドメイン戦略)アプローチ														
15	講義まとめ														
エッセイ	A:知識の定着・確認	○		受講者が各講義での課題(クイズ)に対するミニレポートを(個人またはグループで)提出し、次回の講義で担当教員が解答例と学生からの補足質問を受ける。		エッセイ	講義資料等をMoodleに事前公開し、学習を促進する。なお、資料を印刷したものを配布することもある。詳細は、初回講義にて説明する。								
	B:意見の表現・交換	○													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料、教科書、参考書等にて授業当日の講義内容を予習する(15h)。													
	事後学修	配布資料、教科書、参考書等にて速やかに講義の復習を行う(15h)。講義で紹介した経営学の学説や知識を世の中の社会(企業)現象に重ね合わせて理解しようと努める(15h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	榑原清則(著)「経営学入門(上)」<第2版> 日本経済新聞社、2013年 を参考に講義資料を作成する。														
参考書	青島 矢一(著)、加藤 俊彦(著)「競争戦略論」一橋ビジネスレビューブックス、2012年														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	ミニレポート	50%	○	○											
	期末レポート(5000字程度/A4サイズ4枚程度)	50%	○	○											
	ミニレポートでは毎回の講義内容の定着・確認を図る一方で、期末レポートでは講義で修得したことを世の中の社会(企業)現象に重ね合わせて理解しようと日々努めている														
注意事項	授業を活性化する質問等は奨励する一方で、私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めない。														
備考															
リンク	URL														
担当教員の 実務経験の有無	○														
教員の実務 経験	エネルギー・自動車・金融産業による官民事業会社創設・運営の経験、海外新事業立ち上げ経験、政府機関での海外勤務経験														
実務経験を いかした教育 内容	経営学の学説や理論を踏まえた事例研究の紹介を講義に適宜、採り入れる。														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532M303		経営史 (Business History)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経済	前期	火!	日本語		単独								
担当教員	氏名 渡邊 博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702															
授業の概要	本授業では、一国の社会経済や産業の発展過程をふまえたうえで、個人や組織によるモノやサービス、情報などの創出と提供、それによる利潤の追求などがいかになされてきたのかを、過去の企業家や経営者、企業による意思決定や行動の経緯、要件、背景などを含めて歴史的に解明していきます。そこで、まず、経営史という学問についてアメリカで生み出された経緯や問題意識などとともに、欧米経営史の概要を把握します。次に、日本の社会経済の発展と日本経営史の概要をふまえたうえで、年代ごとに特徴ある企業や経営システムについて、事例研究も交えながら理解します。最終的には、それらをもとに日本企業の現況とこれからのあり方などについても考えていきます。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経営史という学問を知り、それを学ぶ理由を理解する。							○								
目標2	企業や経営システムの成り立ちや歴史を知り、多くの知識を修得する。							○								
目標3	欧米諸国と比べることで、日本の企業や経営システムの独自性や経済発展へのインパクトを理解する。							○	○							
目標4	経営史を学ぶことで、企業や経営システムの現状とこれからのあり方について考えられるようになる。							○				○				
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							4	1	4		1					
授業の内容																
1	本授業のねらいと内容および進め方、経営史という学問															
2	欧米経営史の概要															
3	日本経済の発展と日本経営史の概要															
4	江戸時代から第1次世界大戦前までの経営															
5	両大戦間期の経営(1): 財閥の多角化と組織、重化学工業化と新興財閥															
6	両大戦間期の経営(2): 技術経営の誕生、「日本的」人事管理とサラリーマンの誕生															
7	両大戦間期の経営(3): 都市型ビジネスの成立															
8	第2次世界大戦後(1): 経済民主化と企業変革															
9	第2次世界大戦後(2): 大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展															
10	第2次世界大戦後(3): 企業集団とメインバンク															
11	第2次世界大戦後(4): 日本的生産システムの形成															
12	第2次世界大戦後(5): 流通のイノベーション															
13	第2次世界大戦後(6): 変貌する総合商社															
14	第2次世界大戦後(7): 日本的経営とその変容															
15	講義のまとめ、日本企業の現況と今後のあり方について															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	<input type="radio"/>	事例研究,個人ワークなど				エ そ 夫 の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。								
	B:意見の表現・交換	<input type="radio"/>														
	C:応用志向	<input type="radio"/>														
	D:知識の活用・創造	<input type="radio"/>														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(15時間)興味ある企業を取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略などについての調査(15時間)														
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)														
	想定時間合計	45														
教科書	宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『1からの経営史』碩学舎、2014年。															
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橋川武郎『日本経営史—江戸から令和へ・伝統と革新の系譜 第3版』有斐閣、2023。 佐々木聡編著『グラフィック経営史』新世社、2022年。 鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』(有斐閣アルマ)有斐閣、2004年。 安部悦生『経営史(第2版)』(日経文庫—経営学入門シリーズ)日本経済新聞社、2010年。 その他、講義の中で適宜紹介します。															
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	期末試験結果	70%	○	○	○	○										
	授業参加姿勢(課題対応など)	30%	○	○	○	○										
	上記のことをもとに総合的に評価します。															
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。															
備考																
リンク	URL															
担当教員の 実務経験の 有無	○															
教員の実務 経験	シンクタンク研究員等															
実務経験を いかした教 育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K532M304	企業論 (Company and Business)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	オンライン(オンデマンド型、 含 対面)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語			担当形態			
選択	2	2・3・4	経済	前期集中	他	日本語				単独			
担当 教員	氏名 河野 憲嗣 E-mail kono.kenji.g9@f.mail.nagoya-u.ac.jp 内線												
授業 の 概 要	私たちの生活に深く関わっている企業を理解することは現代社会を生きる上で大切です。授業では担当教員の社会人経験に基づく事例を紹介しながら、企業の成立から現代の組織形態、経営活動の諸相に関する基本を解説します。また企業と事業、営利組織と非営利団体といった対比から企業を考察することで、現代社会がかかえる様々な課題を理解して、問題解決に向けた取り組みや方向性についても論じます。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	企業の成り立ちや組織形態、機能について基本的な知識が身についている						1	2	3	4	5	6	7
目標2	現代社会における企業の役割や社会への影響、また企業が抱える課題について理解し、説明できる									○			
目標3	社会的な課題を解決する方法の一つとして、ビジネスプランを策定し、説明できる								○				
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							5		3	2			
授業の内容													
1	オリエンテーション 企業の現状と課題												
2	企業組織の諸形態												
3	企業の発生と発達												
4	企業と事業												
5	ケーススタディ1(町家旅館)												
6	企業と金融市場(ファイナンス)												
7	企業と労働市場(人的資源管理)												
8	企業と製品・サービス(マーケティング)												
9	企業の戦略と戦術												
10	ケーススタディ2(チェック・トランケーション)												
11	企業の倫理と統治												
12	スモールビジネス												
13	非営利組織への展開～病院経営、NPO												
14	ふりかえり、フィードバック												
15	課題のプレゼン【対面授業】												
ラ フ ク ニ テ ィ ブ	A:知識の定着・確認	○	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。					夫 そ の 他 の エ	毎回の授業でコメントシートの作成、提出を求めます。				
	B:意見の表現・交換	○	・演習や個人ワーク、発表の場などを設けて、学んだ知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。						コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答え、他の学生から学ぶ機会を設けます。				
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外 学修の内容 と 想 定 時 間	準備学修	指定した資料の読了または課題の作成(事前30時間)											
	事後学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	教科書は指定しません。 授業はスライドを使ってすすめます。												
参考書	佐護誉編著(1995)『経営学要論』泉文堂 斎藤・藁谷・相原編(2004)『経営学のフロンティア』学文社 加護野・吉村編(2012)『1からの経営学 第2版』中央経済社 河野憲嗣(2013)『チェック・トランケーション研究 決済の経営学による考察』 その他、必要に応じて授業中に指定します。												
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点		50%	○	○								
	課題		50%			○							
注意事項	課題はパワーポイント資料を作成の上、プレゼン動画を作成、またはパワーポイントに音声を入力したものを作成、提出してもらいます(詳細は第1回で説明します)。課題の内容について、対面授業でプレゼンを求めたり受講生と共有することがあります。 毎回の授業に対して、コメントシートの作成、提出を求めます。												
備考	オンデマンドおよび対面形式で開講します。 時間外学習を活用して授業を有意義な時間にしてください。												
リンク	URL	https://profs.provost.nagoya-u.ac.jp/html/100013781_ja.html											
担当教員の実務経験の有無	○												
教員の実務経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当												
実務経験をいかした教育内容	ビジネスのリアルな動向に金融サービスの観点を加えて、企業の本質を多面的に解説します。												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K532M305	経営情報論 I (Analysis of Business Model using ICT I)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2,3,4	経	前期 3	火3	日本語		単独							
担当 教員	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuoaka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668														
授業 の 概 要	この講義ではICTを利用したデジタルトランスフォーメーションについて最新の事例を使って、事業の特徴と戦略上の優位性を説明し、持続可能な発展のためのサーキュラーエコノミー（循環型経済）をいかに実現しようとしているかについて解説していきます。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。							○							
目標2	企業事例の分析を通して、事業プロセスのモデル化や顧客価値を生み出す仕組みを論理的に理解し、説明できる。							○		○					
目標3	持続可能な発展のための環境負荷軽減につながるデジタルトランスフォーメーションを理解する							○		○					
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								7		3					
授業の内容															
1	講義概要とイントロダクション														
2	世界と日本におけるICT市場の動向														
3	持続可能なデジタルトランスフォーメーションとは														
4	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション 銀行編 FinTech														
5	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション 保険会社編 InsureTech														
6	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション プラットフォーム事業者編														
7	金融業におけるデジタルトランスフォーメーション クラウドファウンディング														
8	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション オムニチャネル化 リアル店舗とネット事業の融合														
9	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション デザインマーケティング														
10	小売業におけるデジタルトランスフォーメーション メタパース活用でなにが変わるか														
11	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション 製造業のサービス化														
12	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション モノの所有から利用で変わるビジネスモデル														
13	製造業におけるデジタルトランスフォーメーション サーキュラーエコノミー型モデル														
14	流通業に於けるデジタルトランスフォーメーション														
15	まとめ														
ラー ニ ン グ	A:知識の定着・確認	○	ビジネスや事業創造上の創意工夫に日常的に関心を持ちましょう。講義で説明するICTを活用したビジネスモデルの各種パターンをまず理解し、事例を分析してもらいます。				エ そ 夫 の 他 の	最新の事例を紹介しますので、講義では理解しやすいように図表を使用したり、また事例紹介のためのストーリーミング映像を時々使用します。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向	○													
	D:知識の活用・創造	○													
授業時間外 学修の内容 と 想定時間	準備学修	経済や企業経営に関するニュースに日頃から目を通しておきましょう。配布した資料や参考URLにアクセスして目を通しておく(20h)													
	事後学修	配布資料を復習する関連するwebサイトを読む。ノートに整理する(25h)													
	想定時間合計	45													
教科書	資料を配布します。														
参考書	参考資料や記事はMoodleにアップロードします。														
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	講義中のミニレポート		10%	○	○	○									
	中間試験もしくはレポート		30%	○	○	○									
	最終試験		60%	○	○	○									
	講義の進捗度合いに応じて中間試験をレポートに変える場合もあります。														
注意事項	遅刻や欠席を極力しないようにして、周りの学生の迷惑にならないようにしてください。第一回目は10分程度オリエンテーションを行い、講義にはいります。タイムリーなトピックスがあるときは講義の時に時間をとって説明します。それによって講義内容の順番が変わることもあります。														
備考	第1回目の講義に必ず出席してください。2年生以上を履修対象とし前後期継続して履修することを勧めます。教室講義の時でもオンライン講義の時でも開始時間に遅れないようにしてください。出張時はオンデマンド教材を準備します。Moodleを毎週定期的にチェックして下さい。														
リンク	URL														
担当教員の実務経験の有無	○														
教員の実務経験	シンクタンクでの講師兼アドバイザー														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K532M306		経営情報論II (Analysis of Business Model using ICT II)					メジャー専門科目 経営メジャー科目			対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語			担当形態							
選択	2	2,3,4	経	後期 3	火 3	日本語				単独							
担当教員	氏名 松岡 輝美 E-mail matsuoka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668																
授業の概要	この講義ではICTを利用したデジタルトランスフォーメーションについて最新の事例を使って、事業の特徴と戦略上の優位性を説明し、持続可能な発展のためのサーキュラーエコノミー（循環型経済）をいかに実現しようとしているかについて解説していきます。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	専門用語の意味や原理を理解・説明できる。																
目標2	ICTを活用した事業の原理や顧客提供価値について理解し、自分でも説明ができる																
目標3	持続可能な環境負荷軽減に寄与する仕組みへの理解を深める																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							7		3								
授業の内容																	
1	講義概要とイントロダクション																
2	SNSを活用した広告とマーケティング 1																
3	SNSを活用した広告とマーケティング 2																
4	SNSを活用したブランド構築 デザイナーダイレクトマーケティング																
5	所有から利用へ シェアリングサービスI モノ・異動																
6	所有から利用へ シェアリングサービスI 場・知識及びスキル																
7	サブスクリプションサービス1																
8	サブスクリプションサービス2																
9	デジタルツイン1																
10	デジタルツイン2																
11	生成AI 1																
12	生成AI 2																
13	働き方改革とICT 利活用 新たに求められる働き方とオフィス機能																
14	地域創成とICT利活用 スマートシティとは																
15	まとめ																
ラーニング エッセンス マップ	A:知識の定着・確認	○ ビジネスや事業創造上の創意工夫に日常的に関心を持ちましょう。講義で説明するビジネスモデルの各種パターンをまず理解し、事例を分析してもらいます。					エ そ 夫 の 他 の	講義では理解しやすいように図表を使いまた事例紹介のためのストーリーミング映像を使用します。									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外 学修の内容と 想定時間	準備学修	配布した資料に講義の前に目を通しておく(15h)															
	事後学修	講義の資料を見直して復習し、授業中に提示した課題を解く(15h) 小テストの誤答箇所について、正解を確認し、ノートに整理する(15h)															
	想定時間合計	45															
教科書	必要な資料は適宜印刷して講義中に配布したり Moodleにuploadします。																
参考書	講義中に適宜指示します。事例紹介動画を講義中に適宜指示します。																
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	中間試験	30%	○	○	○												
	最終試験	60%	○	○	○												
	講義中のミニッツペーパー	10%	○	○	○												
		講義の進捗状況に応じて、中間試験を実施しなかった場合はレポートで代替します。															
注意事項	事例は、その時々において話題性のあるものを取り扱い、新聞、雑誌から印刷して配付します。ストーリーミング映像を使用することもあります。 第一回目はオリエンテーションを行ったあとで、講義にはいります。 最新のトピックスを紹介するので講義内容の順番が前後することがあります。																
備考	2年生以上を履修対象とし前後期継続して履修することを勧めます。事前連絡無く遅刻や欠席をしないようにしましょう。 該当する時事ニュースを盛り込みながら、進めていきます。 Moodleでのアナウンスや指示をよく確認してください。																
リンク	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務 経験	シンクタンクでの講座の講師兼アドバイザー																
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の 有無	○																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K532M307	経営組織論 (Organization Management)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経	前期	月1	日本語		単独					
担当教員	氏名 本谷 るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線												
授業の概要	経営組織論についての専門的知識や理論のうち、基礎となる部分の習得がねらいです。私たちに大きな影響を与えている企業組織のあり方について学び、経済社会への理解を深めるためです。企業組織とは何か、組織がなぜ必要とされるのか、どのようにして判断し行動しているのか、組織と人の関わりはどのようなものか、などについて考える手立てとなる知識と理論を学びます。そして、最終的にはそれらを活用して企業組織を分析できるようになることをめざします。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)							
目標1	経営組織論についての専門的知識や理論を身につける。					1	2	3	4	5	6	7	
目標2	企業組織のしくみを理解することができる。					○		○					
目標3	企業を経営組織の視点から捉えることができる。					○		○					
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						5	5						
授業の内容													
1	ガイダンス、学修の対象と範囲												
2	組織について学ぶこと												
3	組織を動かす基本的しくみ												
4	官僚制												
5	組織の中の人の捉え方												
6	組織の構造												
7	組織における個人の能力												
8	組織の成果を導くリーダー												
9	組織文化												
10	中間試験と復習												
11	組織の意思決定												
12	組織と環境												
13	組織間関係												
14	コンフリクト												
15	組織を変えること												
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○	内容の理解、知識の習得ができたかを確認する課題を課します。moodleから確認					エ そ 夫 の 他 の	講義中に提示する図表の資料を配布、moodleにアップロードします。				
	B:意見の表現・交換	○	し、取り組んでください。										
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	新聞を読み、企業や社会の動きを知るようにしましょう。提示するテキスト等も参考にしてください。(15h)					moodleにアクセスして授業前の課題に取り組みましょう。初回に						
	事後学修	授業内容を再度確認し、整理しましょう。(15h) moodleにアクセスして復習用の課題に取り組みましょう。(15h) 余裕があれば、授業中に紹介する参考文献や、資料に記載してある文献を読んでみましょう。											
	想定時間合計	45											
教科書	講義中に常に用いるテキストはありません。授業の際に参考文献の提示を行います。復習に活用してください。												
参考書	各回の講義中に関連する文献を提示します。												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	中間試験(6/23予定)	50%	○	○	○								
	期末試験	50%	○	○	○								
注意事項	・後期に開講予定の組織革新論を受講する前にぜひこちらを先に受講してください。 ・私語や遅刻など他者に迷惑をかける行為は慎んでください。												
備考	研究室はいつでもオープンにしています。質問などはいつでもどうぞ。												
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K532M308	流通論 (Distribution)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2,3,4	経済	前期	木2	日本語	英語	単独							
担当教員	氏名 松隈久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680														
授業の概要	流通に関する基本的理論を理解し、流通システムの役割を理解すること。また、流通に関係するメーカー、卸売業、小売業の行動を理解すること。														
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	流通に関する基本的理論を説明できること。							○							
目標2	現実の流通システムを分析できるようになること。								○						
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)						6	4								
授業の内容															
1	流通の基本的役割(1)														
2	流通の基本的役割(2)														
3	小売フォーマットと小売店舗形態														
4	PBの展開														
5	卸売業の役割														
6	マーケティングチャネルの役割														
7	情報技術														
8	物流														
9	グローバル流通														
10	サービス財の流通														
11	産業財の流通														
12	流通政策(1)														
13	流通政策(2)														
14	事例研究														
15	まとめ														
ラフィクニテイング	A:知識の定着・確認	○ レポートにより知識の確認を行う。					エ夫の他の	クイズにより理解を深める。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。25時間。													
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べる。20時間。													
	想定時間合計	45													
教科書	授業開始時に指示する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。														
参考書	授業開始時に紹介する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法														
	レポート	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	試験	40%	○												
		60%		○											
新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。															
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。 経営学関連科目を履修済みの2年生以上が望ましい。私語をしないこと。座席は指定席とします。														
備考	新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。														
リンク															
	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K532M311	経営戦略論 (Management Strategies)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	金3	日本語		単独							
担当教員	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714														
授業の概要	企業を取り巻く環境の変化が激しい今日、企業が進むべき基本的方向を示す経営戦略の重要性はますます高まっています。本講義では、経営戦略の概念、経営戦略の策定のあり方、経営戦略のとらえ方、を経営戦略論で提示されている代表的なフレームワークを学ぶことで理解することをねらいとします。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	企業の経営戦略に関するニュース、記事に対し、理論的枠組みを用いて自らの視点で分析・考察できるようになる。							○		○		○			
目標2															
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)								8		1		1			
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	経営戦略の概念														
3	経営戦略論の展開														
4	ドメインの定義①														
5	ドメインの定義②														
6	ドメインの再定義														
7	経営資源①														
8	経営資源②														
9	PPM①														
10	PPM②														
11	ポジショニング戦略論①														
12	ポジショニング戦略論②														
13	資源ベース戦略論①														
14	資源ベース戦略論②														
15	プロセス型戦略論														
フィードバック	A:知識の定着・確認	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。				工	そ								
	B:意見の表現・交換					夫	の								
	C:応用志向					他	の								
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h、計15h)。													
	事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h、計30h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	大滝精一・金井一類・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。ISBN:978-4641220652。														
参考書	周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学I』実教出版。ISBN:978-4407316179。他にも適宜紹介します。														
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	期末試験	90%	○												
	小レポート	10%	○												
講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。															
注意事項	・教科書に書いていないことも講義します。 ・レジュメ等を綴じるためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式							
K242M409	企業ファイナンス論 (Corporate Finance)					経営システム学科 経営システム学科	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態						
選択	2	2,3,4	経済	前期 月 2	月2	日本語		単独						
担当教員	氏名 鶴崎 清貴 (非常勤講師) E-mail kuzaki@oita-u.ac.jp 内線													
授業の概要	「企業ファイナンス論」では、企業ファイナンスの基礎を学びます。本講義では、その基礎とは「評価」を意味します。「評価」とは、経営者あるプロジェクトを実行するのか、買収するのかを、いかに決定するか、ということです。この決定を行うために、「資本予算」、「投資」、そして「資本構成」の主要な3つの問題を考察します。資本予算 (Capital Budgeting) とは、あるプロジェクトを実行する際、そのプロジェクトがどのような価値があるのかを検討することです。投資 (Investment) とは、投資家がどのようなプロジェクトに投資するのか。また、いかに投資ポートフォリオを選択するかということです。資本構成 (Capital Structure) とは、経営者がプロジェクトに対する資金調達をいかにに行い、その資本構成が良いのか否かを考察するものです。これらの基礎を用いて、社会や企業で生じている諸問題を考察します。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	企業ファイナンスの専門用語を理解することができる。							○						
目標2	企業ファイナンスの基礎を習得し、社会で生じている経済諸問題を理解できる。								○	○				
目標3	企業に関わる諸問題を解決する方法を習得でき、資格取得に役立つ。												○	
目標4	企業の社会的責任の重要性を理解できる。									○				
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度 (計10)								2		2	4		2	
授業の内容														
1	イントロダクション													
2	貨幣の時間価値													
3	資金調達 株式と社債の評価													
4	資本予算													
5	債権の利回り													
6	債権の利回り													
7	不確実性とリスク													
8	中間試験													
9	リスク回避と資産の収益性													
10	期待収益率とリスク													
11	ポートフォリオ理論													
12	資本資産評価モデル(CAPM)													
13	資本コストと企業評価													
14	M&A													
15	予備日													
フィードバック	A:知識の定着・確認	<input type="radio"/>	講義中に時事経緯財および経営問題を提示し、質疑している。またレポートを提出させている。										エ 夫 の 他 の	
	B:意見の表現・交換	<input type="radio"/>												
	C:応用志向	<input type="radio"/>												
	D:知識の活用・創造	<input type="radio"/>												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	日経新聞などで、時事経済・経営の問題について事前に学習するよう指導している。												
	事後学修	講義中の問題を解答させている。												
	想定時間合計	45												
教科書	未定。 毎回ハンドアウトを配布する。													
参考書	Welch, Ivo, 2011. Corporate finance an introduction 2nd Edition (Prentice Hall). 市村昭三編『財務管理論』創成社出版, 1999年。 坂本恒夫・文堂弘之『成長戦略のための新ビジネス・ファイナンス』中央経済社, 2007。 古川浩一・蜂谷豊彦他『基礎からのコーポレート・ファイナンス』中央経済社, 2005。 各テーマの参考文献は、講義中に指定します。													
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	講義中の発言		20%											
	レポート		10%											
	中間テスト		20%											
	期末テスト		50%											
注意事項	銀行・証券業界等財務関連職種希望者および各種国家試験(証券アナリスト・公認会計士・税理士等)を受験希望の者の受講を歓迎します。													
備考	パワーポイントを用い講義を進め、講義ごとに資料を配付します。													
リンク	URL													
担当教員の 実務経験の有無	<input type="radio"/>													
教員の実務 経験	公認会計士事務所顧問, 株式会社非常勤監査役													

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K242M410		交通論 I (Transport Theory I)					経営システム学科 経営システム学科		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経済	前期	火2	日本語		単独					
担当教員	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールにて願います)												
授業の概要	皆さんの通学、買い物、旅行などの社会活動においては、何らかの「移動」すなわち「交通」を使っていることが多いと思います。交通とは、何らかの目的を達成するために付随的に行われる経済活動といっても良いでしょう。そして、社会・経済に関する様々な問題、たとえば商業、教育、医療、福祉などにも影響します。 この講義では、 1) 交通に関する事象と社会・経済の諸問題のつながりを理解すること、 2) 日々の交通に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作ること、 を授業の狙いとしします。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	主に経済学的な視点から、人の「移動」に関する様々な現実の事象のとらえ方を理解すること、						1	2	3	4	5	6	7
目標2	人の「移動」に関する様々な社会事象に関心を持ち、それらの事象を考察して客観的な価値判断ができるようになること、						1	2					
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							5	5					
授業の内容													
1	イントロダクション / 1. 交通・交通問題・交通政策とは何か												
2	1. 交通・交通問題・交通政策とは何か / 2. 交通政策の主体												
3	2. 交通政策の主体 / 3. 交通政策の手段												
4	3. 交通政策の手段												
5	進度調整(早く進めば、映像視聴などに充てます)												
6	4. 交通サービスの需要と市場												
7	4. 交通サービスの需要と市場												
8	4. 交通サービスの需要と市場												
9	講演会、または映像視聴(レポートあり) ※状況によっては学外講演会等になる可能性あり												
10	5. 交通社会資本整備のあり方												
11	6. まちづくりと交通												
12	6. まちづくりと交通												
13	7. 交通政策の今後の課題 (割愛する可能性もあります)												
14	進度調整												
15	8. まとめ・試験の案内												
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	毎回ミニッツペーパーの提出を求め(出席確認を兼ねる)、受講生が記載した内容への質疑応答・コメントを各回講義の冒頭(15分から20分程度)で行うことで、受講生との双方向性を担保します。					エ そ 夫 の 他 の	授業内で、重要な政策の最新情報などは適宜取り入れ、現実の交通問題を考えることを促します。					
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	日々の交通に関する事象が社会にどのように影響しているかを考え、また交通に関する新聞記事・ニュースを積極的に確認してもらいたいと思います(10.5h)。可能な限り、テキストの該当部分を読んでおくことも勧めます(15h)。											
	事後学修	講義資料の整理、テキストの復習は欠かせないようにした方が試験対策にもなります(30h)。											
	想定時間合計	55											
教科書	衛藤卓也・大井尚司・後藤孝夫(2023)『交通政策入門(第3版)』同文館出版。 ※2011年発行(初版)・2018年発行(2版)とは内容が異なりますので、これらは買わないでください。 このほか、パワーポイント資料を毎回使用・配布します(教科書で未改訂の図表等を含む)。												
参考書	講義初回に配布するコースシラバス、もしくは講義中に随時案内します。 最新の交通政策は、国土交通省ホームページ掲載の『国土交通白書』『交通政策白書』が有益です。												
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	学期末試験(記述式、講義資料・教科書を参照可とする予定)	70%	○	○									
	ミニッツペーパー提出およびレポート(映像教材視聴または講演時)	30%	○	○									
4回以上の欠席者は、欠席回数に応じて最終評価点から10%~30%を減点します。7回以上の欠席者・レポート未提出者・期末試験の未受験者には一切単位認定を行いません													
注意事項	(1) 講義資料は原則として講義当日のみ配布します。事後配布やWeb等での配信は一切しません。 (2) 7回以上欠席した場合、レポート(または代替課題)未提出の場合は、履修放棄とみなし単位を認定しません。												
備考	第1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方等に関してコースシラバスを配布し、1回目から講義を行います(欠席回数を含む)。過年度から成績評価の方法を変えたので、再履修者等は注意してください。今年度は改組による特例での開講で、来年度以降は隔年(偶数年度)で開講になります。												
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の 有無	○												
教員の実務 経験	旅行会社(交通事業者系)、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。												
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○												
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	レポート実施時に講演会となった場合は、政策形成や交通事業に関係するゲストを招きます。												
実務経験を いかした教 育内容	日本・地方の交通政策形成にかかわっているため、適宜情報を提供する予定です。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K243M410		交通論II (Transport Theory II)					経営システム学科 経営システム学科		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経済	後期	火2	日本語		単独					
担当教員	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールにて願います)												
授業の概要	前期の「交通論I」では、交通政策・交通問題を、経済学の考え方(経済学の知識は基礎レベル)で考えるための基礎情報を提供しました。後期に開講される本科目は、経済学の基礎的な知識を履修していることを前提に、 1) 交通問題を考えるための経済学(一部経営学)の理論的・定量的な手法を理解すること 2) 理解した手法を用いて、現実の交通に関する社会問題を定量的・理論的に考えていくことができるようになることを狙いとして、そのために求められる内容(重要なポイント)について講義します。 なお、数学(中学レベル+高校の微分程度)と基礎レベルのミクロ経済学を使用しますが、適宜復習的な解説は行います。												
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	主に経済学的な視点から、人の「移動」に関する様々な現実の事象のとらえ方について、経済学の理論を使った手法があること					○	○						
目標2	人の「移動」に関する様々な社会事象や関連する政策・事象について、政策的価値判断の基準(この講義で学んだ価値判断の基					○	○						
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						5	5						
授業の内容													
1	イントロダクション(講義内容等説明) / 1. 数学復習												
2	2. 交通の需要												
3	2. 交通の需要												
4	2. 交通の需要												
5	3. プロジェクト評価の手法について ※3. と4. の順番は入れ替わることがあります。												
6	3. プロジェクト評価の手法について												
7	3. プロジェクト評価の手法について												
8	4. 交通の供給と費用・価格設定												
9	4. 交通の供給と費用・価格設定												
10	4. 交通の供給と費用・価格設定 ※ここまで終了した時点で中間課題を課します												
11	5. 規制緩和と市場の失敗について												
12	5. 規制緩和と市場の失敗について												
13	5. 規制緩和と市場の失敗について												
14	進捗調整(余裕があればレビューセッション実施)												
15	中間課題返却、質問受付、期末試験案内												
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○ 各回でミニッツペーパーの提出を求め(出席確認を兼ね)、受講生が記載した内容への質疑応答を講義冒頭15分程度で行うことで、双方向性を担保します。また、理論的内容部分については、理解を助けるための演習問題を適宜出題します。					工 夫 の 他 の	授業内、あるいは宿題等で、重要な数学的手法や理論をおさらいする課題を出します。中間課題で学んだことを復習するというプロセスを経ることで期末試験の準備を促します。					
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	該当する部分の教科書を読むこと、前回講義分の内容や理論などをおさらいしておくを望ましいです(30h)。											
	事後学修	理論系の科目になるので復習が欠かせません。定着のための練習問題を適宜出しますので、その内容は完璧に理解することと、講義ノート(レジュメ)の整理・見直しを毎回行うことを薦めます(30h)。また、日々の交通に関するニュース等にも関心を持っておいてください(10.5h)。											
	想定時間合計	70											
教科書	衛藤卓也・大井尚司・後藤孝夫(2023)『交通政策入門(第3版)』同文館出版。 ※2011年発行(初版)・2018年発行(2版)とは内容が異なりますので、これらは買わないでください。 このほか、パワーポイント資料・練習問題を印刷・配布します(教科書で未改訂の図表等を含む)。												
参考書	講義初回に配布するコースシラバス、もしくは講義中でも随時案内します。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	学期末試験(記述式、講義資料・教科書を参照とする予定)	50%	○	○									
	中間課題(出題方法は変更可能性あり)	50%	○	○									
	ミニッツペーパー提出	0%	○	○									
	4回以上の欠席者は、欠席回数に応じて中間課題の点数から10%~50%を減点します。7回以上の欠席者・中間課題未提出者・期末試験の未受験者には一切単位認定を行い												
注意事項	(1) 講義資料は事後配布やWeb等での配信は一切しません。 (2) 7回以上欠席、中間課題未提出、期末試験未受験の場合は、単位を認定しません。 (3) 遅刻・欠席すると後がついていけなくなることがありますので、毎回頑張りましょう。												
備考	第1回目に成績評価や講義内容に関する詳細なコースシラバスを配布します。成績評価の基準について、受講生が多い場合は中間課題の出し方と成績評価基準を変更する可能性があります(講義開始後にお知らせします)。今年度は改組による特例での開講で、来年度以降は隔年(偶数年度)で開講になります。												
リンク	URL												
担当教員の業務経験の有無	○												
教員の業務経験	旅行会社(交通事業者系)、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。												
教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	○												
教員以外の指導に関わる業務経験者	講義の内容や進度によって、政策形成や交通事業に関係するゲストを招く可能性があります。												
実務経験をいかした教育内容	日本・地方の交通政策形成にかかわっているため、適宜情報を提供する予定です。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532M318		物流論Ⅰ (Introduction to Logistics System)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2, 3, 4	経済学部	前期	木3	日本語		単独									
担当教員	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールで)																
授業の概要	本講義では、物流(主に国内物流)の現状と、物流の理解に関して必要となる基礎知識について解説します。それにより、受講者が物流の基礎を理解し、この分野への関心を持つきっかけを作り、後期開講の物流論Ⅱ受講への前提知識を把握してもらうことが狙いです。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	物流に関する社会事象の背景を理解すること								○								
目標2	物流の問題が身近な経済活動に関連していることを理解し、就業先選択の一助となること									○							
目標3	物流が関連する社会問題に対して、基礎的な知識を活かして受講生自らの見解を考えることができるようになること								○		○						
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)									6	2	2						
授業の内容																	
1	講義の説明とイントロダクションーなぜ物流が重要か																
2	物流の基礎(1) 物流とは何か・物流の種類																
3	物流の基礎(2) 物流の発展																
4	物流の基礎(3) 物流の生産要素・機能と構成																
5	物流の基礎(4) 物流の生産要素・機能と構成																
6	物流の基礎(5) ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント																
7	物流の基礎(6) 物流と保険・通関について																
8	(予定)国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会(対面またはオンライン、時間内でレポートを課します)																
9	国内物流の現状(1) 陸上輸送																
10	国内物流の現状(1) 陸上輸送																
11	国内物流の現状(2) 海上輸送																
12	国内物流の現状(2) 海上輸送																
13	国際物流へのつながり																
14	進度調整																
15	講義のまとめ(進度によって割愛)																
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、質問は次回以降の講義でリプライします。				エ 夫 の 他 の	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づけており、実践で物流に携わる方の生の声を聴く機会を設けます。									
	B:意見の表現・交換	○	ミニッツペーパーは出席回数の把握(出席チェック)にも使用します。					きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数が多い人には最終評価点からのペナルティーを課します。									
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	ニュースや新聞・雑誌などで出る物流関係の記事に注目し、本講義で学んだ内容と関係つけて理解、あるいは問題意識を持つようにすることを勧めます(15h以上)。															
	事後学修	講義レジュメの整理を行ってください(試験対策にもなります)。参考文献などにも目を通すとよいです(あわせて30h以上)。															
	想定時間合計	45															
教科書	使用しません(適切な書物がないため、講師が資料を配布します)。 【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。																
参考書	森隆行(2018)『現代物流の基礎(第3版)』同文館(どうぶんかん)出版柴田悦子ほか(2008)『新時代の物流経済を考える』成山堂書店(社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	学期末試験(記述式、資料参照可)	70%	○		○												
	ミニッツペーパー(毎回)・レポート(講演時)	30%	○	○	○												
	学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。																
注意事項	(1)学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。1回目から出席を取ります。 (2)欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとして最終評価点を減点します(10%~30%)。7回以上欠席した場合は履修放棄とみなします(成績はFとします)。																
備考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方等に関する詳細なコースシラバスを配布します。授業の内容は進度や現状の内容を踏まえて変更・割愛する場合があります。「物流概論」の単位取得者は受講できません。評価基準は過年度から変更しましたので、再履修者等は注意してください。																
リンク	URL																
担当教員の実務経験の有無	○																
教員の实務経験	旅行会社(交通事業者系)、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。																
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○																
教員以外の指導に関わる実務経験者	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づける講演会で、実務担当者(過年度は物流事業者)を招聘しての講演会を行います。																
実務経験をいかした教育内容	講師の実務経験(国交省系の政策形成への関与)を反映した講義を行うとともに、その経験から国土交通省九州運輸局「物流講座」に九州内の国立大・大分県内では唯一位置づけられておりますので、実践面の理解も深まる内容になっています。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K532M319		物流論Ⅱ (Logistics Theory II)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2, 3, 4	経済学部	後期	木3	日本語		単独					
担当教員	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールで)												
授業の概要	本講義では、前期開講の物流論Ⅰで得た基礎知識を踏まえ、港湾・海運・航空といった国際物流の実際について理解するとともに、国際物流におけるトピックスについて、社会経済とのつながりを考えながら理解するためのきっかけ作りを狙いとします。												
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	国際物流の実際(港湾・海運・航空)に関する基礎知識を理解し、就業先選択等に役立てるようにすること						○						
目標2	国際物流の実際問題(港湾・海運・航空)が現状の社会経済事情に関連することを理解すること					○		○					
目標3	国際物流の実際問題(港湾・海運・航空)に対して自らの意見を言えるようになること					○		○					
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						4	2	4					
授業の内容													
1	イントロダクション 港湾整備の問題(1) 物流の中の港湾の位置づけ、港湾の数と種類												
2	港湾整備の問題(2) 港湾の構成要素												
3	港湾整備の問題(3) 港湾整備の制度と財源												
4	国際海上輸送の問題(1) 外航海運の現状												
5	国際海上輸送の問題(2) 海運市場の特徴												
6	国際海上輸送の問題(3) 外航海運企業について												
7	進度調整												
8	(予定) 国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会(対面またはオンライン、時間内にレポートを課します)												
9	航空貨物の問題(1) 航空貨物の現状												
10	航空貨物の問題(2) 航空貨物の歴史												
11	航空貨物の問題(3) 航空貨物の仕組みと主体												
12	国際物流の課題とトピックス(1) 港湾整備・国際海上輸送												
13	国際物流の課題とトピックス(2) 航空貨物・規制緩和・トピックス												
14	進度調整												
15	まとめ(進度によって割愛)												
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	○	毎回の講義でミニッツペーパーを配布し質問等を書いてもらい、質問は次回以降の講義でリプライします。	エ そ 夫 の 他 の	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づけており、実践で物流に携わる方の生の声を聴く機会を設けます。								
	B:意見の表現・交換	○	このミニッツペーパーは、出席チェック(出席回数の把握)にも使います。		きちんと出席した人が報われるよう、欠席回数が多い人には最終評価点からのペナルティーを課します。								
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容と 想定時間	準備学修	ニュースや新聞・雑誌などで出る物流関係の記事に注目し、本講義で学んだ内容と関係づけて理解、あるいは問題意識を持つようにすることを勧めます(15h以上)。											
	事後学修	講義レジュメの整理を行ってください(試験対策にもなります)。参考文献などにも目を通すとなお良いです。(あわせて30h以上)											
	想定時間合計	45											
教科書	使用しません(適切な書物がないため、資料を配布します)。 【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。												
参考書	鈴木暁(2009)『国際物流の理論と実務(四訂版)』成山堂書店 汪(ワン)正仁(2006)『ビジュアルでわかる国際物流(改訂版)』成山堂書店 (社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版 森隆行(2018)『現代物流の基礎(第3版)』同文館(どうぶんかん)出版 柴田悦子ほか(2008)『新時代の物流経済を考える』成山堂書店												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	学期末試験(記述式、資料参照可)	70%	○		○								
	ミニッツペーパー・講演会開催時のレポート	30%	○	○	○								
	学期末試験は資料参照可とします。7回以上欠席の場合は受験を認めません。												
注意事項	(1) 学校の認める「公欠」「出席停止」事例以外の欠席は全て欠席扱いです。1回目から出席を取ります。 (2) 欠席回数が4回以上の場合は、ペナルティとして最終評価点を減点します(10%~30%)。7回以上欠席した場合は履修放棄とみなします(成績はFとします)。												
備考	1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方等に関する詳細なコースシラバスを配布します。授業の内容は進度や現状の内容を踏まえて変更・割愛する場合があります。「国際物流論」の単位取得者は履修できません。過年度から成績評価基準等を変えていますので、再履修者等は注意してください。												
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の実務 経験	旅行会社(交通事業者系)、国土交通省系の研究所での勤務経験があります。												
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の 有無	○												
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	国土交通省九州運輸局「物流講座」に位置づける講演会で、実務担当者(過年度は物流事業者)を招聘しての講演会を行います。												
実務経験を いかした教育 内容	講師の実務経験(国交省系の政策形成への関与)を反映した講義を行うとともに、その経験から国土交通省九州運輸局「物流講座」に九州内の国立大・大分県内では唯一位置づけられておりますので、実践面の理解も深まる内容になっています。												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532M340		観光政策論 (Theories of Tourism Policy)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経済学部	前期	水I	日本語		単独								
担当教員	氏名 大井 尚司 E-mail ooi-hisashi@oita-u.ac.jp 内線 7697 (連絡はメールで)															
授業の概要	日本の観光は、インバウンドの急増にも支えられ近年急成長しました。一方で、ICTの発達により旅行・観光に関する業態のあり方が大きく変わったほか、地震などの天災・コロナ2019といったリスクは観光客減少を招き、観光に依存する地域経済や業界の脆弱性を示しました。とはいえ、「観光」は地域・地域外のかかなり広い産業・業種を巻き込み、雇用・消費・税金など大きな地域への影響をもたらします。その仕組みや政策等を理解しておくことは、「観光」を適切に評価するうえで重要です。 この講義では、 1) 観光に関する事象と社会・経済・地域の諸問題のつながりを理解すること 2) 地域の観光に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作ること を目標に、社会活動における観光という経済活動、および地域における観光に関する政策・施策の理解に向けて講義を行います。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	観光に関する事象と社会・経済・地域の諸問題のつながりを理解すること						○		○				○			
目標2	地域の観光に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作ること						○		○				○			
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							4		2			4				
授業の内容																
1	イントロダクション / 1. 観光とは何か(問題の整理)															
2	2. 観光産業と資源(1) 旅行産業															
3	2. 観光産業と資源(2) 宿泊産業															
4	2. 観光産業と資源(3) テーマパーク・施設等															
5	3. 観光と交通															
6	4. 観光と経済(1) 観光を経済学で見る(経済学の理論との関係)															
7	4. 観光と経済(2) 観光の経済効果															
8	5. 観光と消費者行動(1) 消費者行動理論との関係															
9	5. 観光と消費者行動(2) 実際の消費者行動とマーケティング															
10	講演会または映像視聴(レポート提出あり) ※学外講演会等になる可能性あり															
11	6. 観光政策(1) 日本の観光政策と行政のかかわり															
12	6. 観光政策(2) 実際の施策とその課題															
13	7. 観光と地域の関わり・観光政策のトピック															
14	進度調整(早く進んだ場合はレビューセッションまたは映像視聴)															
15	8. まとめ・試験の案内															
フィードバック	A:知識の定着・確認	○	毎回ミニッツペーパーの提出を求め(出席確認を兼ねる)、受講生が記載した内容への質疑応答・コメントを各回講義の冒頭(15分から20分程度)で行うことで、受講生との双方向性を担保します。	エ 夫 の 他 の	授業内で、重要な政策や現場の情報といった最新情報などは適宜取り入れ、現実の観光に関する問題を考えることを促します。											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	日々の交通に関する事象が社会にどのように影響しているかを考え、また交通に関する新聞記事・ニュースを積極的に確認してもらいたいと思います(10.5h)。可能な限り、テキストの該当部分を読んでおくことも勧めます(15h)。														
	事後学修	講義資料の整理、テキストの復習は欠かさないようにした方が試験対策にもなります(30h)。														
	想定時間合計	56														
教科書	①岡本信之編(2001)『観光学入門』有斐閣アルマ ②竹内正人・竹内利江・山田浩之(編著)(2018)『入門 観光学』ミネルヴァ書房 ※①をベースに予定しますが、①が古いため、②または新しい書物で適切なものがあればそれに替えるか、内容を取り込んで講義を組み立てます。 このほか、パワーポイント資料を毎回使用・配布します。															
参考書	講義初回に配布するコースシラバス、もしくは講義中に随時案内します。 最新の観光政策は、国土交通省観光庁ホームページ掲載の『観光白書』が有益です。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	学期末試験(記述式、講義資料・教科書を参照可とする予定)	70%	○	○												
	ミニッツペーパー・レポート	30%	○	○												
4回以上の欠席者は、欠席回数に応じて最終評価点から10%~30%を減点します。7回以上の欠席者・レポート未提出者・期末試験の未受験者には一切単位認定を行いません																
注意事項	(1) 講義資料は原則として講義当日のみ配布します。事後配布やWeb等での配信は一切しません。 (2) 7回以上欠席した場合、レポート(または代替課題)未提出の場合は、履修放棄とみなし単位を認定しません。															
備考	第1回目の講義で、成績評価・講義内容・進め方等に関してコースシラバスを配布し、1回目から講義を行います(出欠回数を含む)。 実践への応用などを考えたい場合は、演習形式の講義ですが、後期に開講される「地域観光プロジェクト演習」の履修をおすすめします。															
リンク	URL															
担当教員の 実務経験の有無	○															
教員の実務 経験	国土交通省系の研究所・旅行会社への在職経験あり。国土交通省の審議会委員。															
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の 有無	○															
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	観光関係の外部講師(団体、実務者など)を講演時ないしは講義で招聘する予定。															
実務経験を いかした教育 内容	講師の実務経験と、国の政策形成に関わっていることで得られる情報を講義で展開予定。															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
K521M204	サステナブル・リーダーシップ入門 (Introduction to Business Leadership and Sustainable Management)						学部基盤科目 経営メジャー系	オンライン(オンデマンド型、含 対面)				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
選択	2	1・2・3・4	経済学部	前期集中	他	日本語		単独				
担当教員	氏名 河野 憲嗣 E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線											
授業の概要	「サステナブルな社会の実現」や「SDG'sの実践」といった話を聞く機会が増えてきました。そこで改めて、なぜこうした考え方が求められているのか、現在に至るまでの流れを整理し、その重要性や課題への理解を深めます。 サステナブルな社会は現在の延長線上にはありません。実現には前例のない挑戦が必要となります。そこで求められるリーダーシップとは何か。そもそもサステナブルやリーダーシップとは何か。言葉の本質への理解を掘り下げながら、自分たちの生きる未来を主体的に創る責任と方法を学びます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	サステナブルという概念の基本、議論の経緯について理解し、説明できる。							○				
目標2	サステナブルな開発、サステナブルな社会の実現のための具体的な取り組みに関する基礎知識を習得し、説明できる。							○				
目標3	リーダーシップという概念の基本や多様性を理解し、説明できる。							○				
目標4	サステナブルな社会を実現するための、リーダーシップのあり方について、自分の考えを整理して、説明できる。							○				
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)								2 3 2 3				
授業の内容												
1	オリエンテーション サステナブルとリーダーシップ											
2	サステナブルを巡る議論											
3	SDG'sという物語											
4	持続可能な社会への取り組み											
5	実践から学ぶ1 ゲスト：渡部幹雄先生											
6	リーダーシップを巡る議論											
7	リーダーシップの多様性											
8	スキルとしてのリーダーシップ											
9	あなたのリーダーシップとは											
10	実践から学ぶ2 ゲスト：弦間一雄先生											
11	サステナブルな社会のためのリーダーシップとは											
12	サステナブルなリーダーシップとは											
13	実践から学ぶ3 ゲスト：水谷高先生											
14	ふりかえり、フィードバック											
15	課題のプレゼン【対面授業】											
ラベリング	A:知識の定着・確認	○	・学習内容を理解していることを確認するための課題、成果物を作成してもらいます。		夫		毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。					
	B:意見の表現・交換	○	・演習や課題の作成、提出と共有やプレゼンの機会を取り入れて、知識の体得と他の学生から学ぶ機会を設けます。		他							
	C:応用志向				の							
	D:知識の活用・創造	○			工							
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	「サステナブル」「持続可能な社会」「リーダーシップ」といった言葉を念頭において日頃から新聞や雑誌、インターネットなどで政治、経済、経営、社会、技術、文化に関する記事をよく読んでおくこと。(事前学習30時間)										
	事後学修	授業で得た学びに基づいて日常生活の中でサステナブルな社会づくりの実践事例を見つけて理解する。リーダーシップを発揮できる場面やテーマをみつけて実践してみる。(事後学習15時間)										
	想定時間合計	45										
教科書	教科書は指定しません。 授業はスライドを使って進めます。											
参考書	斉藤幸平(2020)『人新世の「資本論」』集英社山極寿一(2023)『共感革命』河出書房新社 その他、必要に応じて授業中に指定します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点	50%	○	○								
	課題	50%			○	○						
注意事項	課題はパワー資料を作成の上、プレゼン動画を作成、またはパワーポに音声を入力したものを作成、提出してもらいます(詳細は第1回で説明します)。課題の内容について、対面授業でプレゼンを求めたり受講生と共有することがあります。 毎回の受講に対して、コメントシートの作成、提出を求めます。											
備考	オンデマンドおよび対面形式で開講します。 時間外学習を活用して授業を有意義な時間にしてください。 2017年度以降の入学生のみ受講可能です。											
リンク	URL https://profs.provost.nagoya-u.ac.jp/html/100013781_ja.html											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の実務 経験	河野憲嗣(企業経営者、全国銀行協会、人事担当)											
実務経験を いかした教 育内容	ビジネスのリアルな事例や地域の実践的な活動例を取り上げて、サステナブルな社会やリーダーシップについて解説します。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K521M205	大分のものづくりと地域づくり I (Manufacturing and Community in Oita I)					学部基盤科目 経営メジャー系	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1・2・3・4	経済学部	後期	水5	日本語		複数(共同)、オムニバス					
担当教員	氏名 社会イノベーションコース教員 E-mail 内線												
授業の概要	外部講師によるオムニバス形式の講義です。多彩な分野から講師をお招きして大分のものづくりや地域づくりを発展させるアイデア、方法を学びます。企業経営者や行政、NPOの関係者、各業界の専門家や実務家によるリアルな現場経験に基づいたお話しから、地域活性化のヒントを探求します。												
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	大分のものづくりと地域づくりにおける課題を発見、理解して説明できる。										○		
目標2	経験知・実践知を通じて社会課題の解決策としてのイノベーションの重要性について理解し、説明できる。							○					
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)									2		8		
授業の内容													
1	ガイダンス												
2	食品分野												
3	農林分野												
4	芸術分野												
5	製造業												
6	流通業												
7	観光業												
8	宿泊業												
9	マスメディア												
10	地域、商店街												
11	NPO、ボランティア												
12	教育分野												
13	金融分野												
14	行政(県や市町村など)												
15	総括とまとめ(順番や内容は、変更することがあります。初回講義時にあらためて説明します)												
フィードバック	A:知識の定着・確認	・講義終了後に講師への質疑時間をとります。積極的に発言して、語られた言葉の真意を掘り下げてください。 ・講義で学んだことをレポートなど成果物にしてもらうことで、学びの定着化を図ります。					エ	そ	夫	の	毎回の授業に関するコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて授業内で対応できなかった質問や感想に答え、内容を共有することで他の学生から学ぶ機会を設けます。		
授業時間外学習の内容と想定時間	準備学習	講義予定の講師に関する情報について図書館やインターネットで事前に概要を調べておくこと。講師への質問を1つ以上準備する。(事前学習30時間)											
	事後学習	講義を聞いた上で、あらためて講義に関する情報を調べてレポートを作成することで学びを深め、学習を発展させる。(事後学習15時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	各講師が必要に応じて指定します。												
参考書	各講師が必要に応じて指定します。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	毎回のコメント	15%	○	○									
	期末試験または期末レポート	85%	○	○									
毎回、コメントを記入してもらうことで出欠も取ります。その際に、Moodleの事後課題機能を使う予定です。欠席回数が6回を超えると成績評価の対象外となります。													
注意事項	社会の第一線で活動されている方の話が聞ける良い機会です。現実の社会で起きていることを知り、大分の課題と可能性について理解を深めながら、いま暮らしている地域のことや社会全体への関心を広げてください。												
備考	授業の内容や順番は講師の都合により変更する場合があります。2017年度以降の入学生のみ受講可能です。後期間講科目「大分のものづくりと地域づくりII」と合わせて受講することをおすすめします。地域創生教育科目												
リンク	URL												
担当教員の実際経験の有無	○												
教員の実際経験	経営者として事業経営の経験(松谷)、シンクタンク研究員等(渡邊)												
教員以外で指導に関わる実際経験の有無	○												
教員以外の指導に関わる実際経験者	登壇者担当分野の実務とともに、それぞれの立場(企業経営者、技術者、現場責任者など)からの知見。												
実際経験をいかした教育内容	企業経営や実務の経験を通じて、現実の社会で求められる知識や考え方の習得を促進します。												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K532M332	製品開発論 (Strategic Management for Product Development)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 仲本 大輔 E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714												
授業の概要	本講義は製品やサービスの開発に関わる様々なテーマを経営戦略論の観点から探っていきます。企業が存続し成長していくための方法の1つとして新製品や新サービスの開発がありますが、そのためには企業はいかなる経営戦略を策定し、組織を動かしているか、を理解することをねらいとします。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)							
目標1	企業の新規事業開発のあり方(新製品・新サービスの開発プロセス)について自らの視点で分析・考察できるようになる。					1	2	3	4	5	6	7	
目標2	企業の多角化戦略のあり方について自らの視点で分析・考察できるようになる。					○		○		○			
目標3	イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。					○		○		○			
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						8		1		1			
授業の内容													
1	ガイダンス												
2	経営戦略論の復習												
3	市場地位別の戦略												
4	企業の多角化戦略①												
5	企業の多角化戦略②												
6	企業の新規事業開発												
7	社内ベンチャー①												
8	社内ベンチャー②												
9	社内ベンチャー③												
10	イノベーションと企業の経営戦略①												
11	イノベーションと企業の経営戦略②												
12	イノベーションと企業の経営戦略③												
13	製品アーキテクチャ論①												
14	製品アーキテクチャ論②												
15	業界標準をめぐる企業の経営戦略												
ラーニング グループ	A:知識の定着・確認	講義で取り上げるテーマに関連するものを含め、企業経営に関する記事やニュース映像等を適宜見せ、解説をします。その際に注目すべき点、考えてみてほしい点も指摘し、さらなる学習を促します。					エ	そ	夫	他	の		
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	興味を持っている企業、業界に関するニュース、記事を積極的に見聞きしてください(各回1h,計15h)。											
	事後学修	講義で紹介した理論について、書籍等で復習やさらなる学習をしてください。また、企業経営に関するさまざまなニュースを、学習した理論枠組みでどのように解釈することができるか考えてみてください(各回2h,計30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	開講時に指示します。												
参考書	・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智(2016)『経営戦略[第3版]』有斐閣。ISBN:978-4641220652。 ・周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔(2009)『経営学I』実教出版。ISBN:978-4407316179。 他にも適宜紹介します。												
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	期末試験	90%	○	○	○								
	小レポート	10%	○	○	○								
講義で取り扱うテーマに関連するビデオを観る時間を1回設けます。そのビデオを観て気づいたことや考えたことなどを小レポートとして提出してもらいます。													
注意事項	レジュメ等を綴るためのA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがぞましいです。												
備考	経営戦略論を受講してから受講するのがぞましいです。												
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
K532M333	市場開発論 (Market Development Theory)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経済	後期	木2	日本語	英語	単独								
担当教員	氏名 松隈 久昭 E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680															
授業の概要	市場開発に関する理論と実践を学習し、市場開発の基本的理解を踏まえ、新たな市場を創造する際の課題を分析する基礎的能力を習得する。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	市場開発を行うための基本的な方法を習得すること。								○							
目標2	消費者の心理や行動を分析できるようになること。									○						
目標3																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							7	3								
授業の内容																
1	市場開発の方法															
2	市場開発の理論															
3	デジタル社会のマーケティング															
4	デジタル社会の消費者行動															
5	ビジネスモデルの事例研究															
6	デジタル・マーケティングの基本概念															
7	製品戦略の事例研究1															
8	製品戦略の事例研究2															
9	価格戦略の事例研究1															
10	価格戦略の事例研究2															
11	チャンネル戦略の事例研究1															
12	チャンネル戦略の事例研究2															
13	プロモーションの事例研究1															
14	プロモーションの事例研究2															
15	まとめ															
ラフ イ ク ニ テ ン シ イ グ グ	A:知識の定着・確認	○	テーマに関連する企業の市場開行動を示すので、比較研究してほしい。それにより具体的な市場開行動を理解してほしい。レポートにより知識の確認を行う。					エ 夫 の 他 の	クイズにより理解を深める。							
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造	○														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。30時間。														
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的な事例を経済誌や新聞で調べること。20時間。														
	想定時間合計	50														
教科書	未定。初回の授業時に指定する。受講する方は、必ずテキストを入手してください。テキストからレポート課題を指定します。															
参考書	コトラー「マーケティング・マネジメント」プレジデント社 (1996)															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	レポート	40%	○													
	試験	60%		○												
	新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。															
注意事項	受講する方は、必ずテキストを入手してください。 出席が基準以下の場合、評価しないので注意すること。 私語禁止。座席は指定席とします。															
備考	中級レベルの科目のため、2年生以上の履修が適切です。関連する科目は、マーケティング論、製品開発論です。 新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業(オンデマンドを含む)になる場合があります。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
K532M335	研究開発マネジメント論 (Research and Development Management)						メジャー専門科目 経営メジャー科目	オンライン(オンデマンド型、含 対面)				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態				
	2	2・3・4	経済	前期集中	他	日本語		単独				
担当教員	氏名 河野 憲嗣 E-mail kono.kenji.g9@f.mail.nagoya-u.ac.jp 内線											
授業の概要	研究開発は企業の競争力を左右する源泉として、主として製造業の領域で議論されてきました。現在はサービス業、例えばITや流通、また観光やエンターテインメントといった非製造業の分野でも研究開発が重視されています。こうした状況にある研究開発を成功裡に導くためのマネジメントの工夫について、ものづくりの事例からサービス業まで幅広く視野にいれながら考察します。											
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7				
目標1	研究開発マネジメントの基本的な枠組みを理解し、説明できる。						○					
目標2	デザイン思考を使って自らのアイデアを深化し、表現できる。							○				
目標3	アイデアや学びの具現化を通じて、研究開発マネジメントの手法を実生活に応用できる。							○				
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)							3	4	3			
授業の内容												
1	オリエンテーション 研究開発マネジメントを考える											
2	生産システムの基礎											
3	業務プロセス設計											
4	サービスの研究開発I											
5	実践から学ぶ1 ゲスト:小野圭司先生											
6	デザイン思考1 Observation 観察する											
7	デザイン思考2 Ideation 発想する											
8	デザイン思考3 Visualization 具体化する											
9	デザイン思考4 まとめ											
10	実践から学ぶ2 ゲスト:江口雅祥先生											
11	競争力の管理											
12	研究開発力の構築											
13	実践から学ぶ3 ゲスト:後藤康雄先生											
14	ふりかえり、フィードバック											
15	課題のプレゼン【対面授業】											
リンク タイプ ラ	A:知識の定着・確認	○	・学習内容を理解していることを確認するための成果物を作成してもらいます。				その 他 の 工 夫	毎回の授業でコメントシートの記入、提出を求めます。 コメントシートを通じて授業の中で対応できなかった質問や感想に答えて、他の学生から学ぶ機会を設けます。				
	B:意見の表現・交換	○	・演習やプレゼンの機会を取り入れて、知識を体得し、他の学生から学ぶ機会を設けます。									
	C:応用志向	○										
	D:知識の活用・創造	○										
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	指定した資料の読了または課題の作成(事前30時間)										
	事後学修	講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など(事後15時間)										
	想定時間合計	45										
教科書	教科書は指定しません。 授業はスライドを使って進めます。											
参考書	藤本隆弘(2001)『生産マネジメント入門I』『生産マネジメント入門II』日本経済新聞出版社その他、必要に応じて授業中に指定します。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	平常点	50%	○	○	○							
	課題	50%		○	○							
注意事項	課題はパワーポイントを作成の上、プレゼン動画を作成、またはパワーポイントに音声を入力したものを作成、提出してもらいます(詳細は第1回で説明します)。課題の内容について、対面授業でプレゼンを求めたり受講生と共有することがあります。 毎回の受講に対して、コメントシートの作成、提出を求めます。											
備考	オンデマンドおよび対面形式で開講します。 時間外学習を活用して授業を有意義な時間にしてください。 地域創生教育科目。											
リンク	URL https://profs.provost.nagoya-u.ac.jp/html/100013781_ja.html											
担当教員の実務経験の有無	○											
教員の実務経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当											
実務経験をいかした教育内容	ビジネスのリアルな動向と金融サービスの実務に関する視点から、研究開発マネジメントについて解説します。											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
K532M336	サステナブルビジネスと起業 (Sustainable Business and Entrepreneurship)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2	経済学部	前期	木4	日本語		単独									
担当教員	氏名 渡邊博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702																
授業の概要	本授業では、サステナブル視点に基づき、中小企業やベンチャー企業、スタートアップなどについて考えていきます。アントレプレナーシップ、イノベーションの歴史や本質、ネットワークやエコシステムなどについて把握し、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウといった経営資源の活用の仕方など起業や事業展開のための条件や手法も検討します。大分の企業や金融機関、行政の方々などにもゲストスピーカーとして登壇いただき、課題の深掘りとアイデアを創出します。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)																
目標1	中小企業やベンチャー企業、スタートアップなどの分類や歴史、ビジネスの側面を把握し、関連する多くの知識を得る。	1	2	3	4	5	6	7									
目標2	一国経済の中でイノベーションやアントレプレナーシップの必要性と重要性を理解する。	○															
目標3	サステナブル視点に基づくこれからの起業と企業のあり方について考える。	○		○													
目標4	アイデアの創出を繰り返す。	○	○	○													
目標5	自ら起業する可能性がある場合は、その準備をする。			○	○	○											
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)		4	1	3	1	1											
授業の内容																	
1	中小企業・ベンチャー企業、スタートアップの定義と取り巻く経済・産業・社会、イノベーション																
2	ものづくり中小企業の歴史的展開																
3	中小企業やベンチャー企業に関する特徴(1) サプライヤー・システム																
4	中小企業やベンチャー企業に関する特徴(2) 社会ネットワーク																
5	起業の民主化と理論的視角																
6	起業家の認知																
7	起業と組織																
8	起業をめぐる環境																
9	ベンチャー企業とスタートアップ、スピナウトとスタートアップ																
10	プラットフォーム・ビジネス																
11	アントレプレナー・エコシステム																
12	起業とグローバリゼーション																
13	大分における中小企業・ベンチャー企業、スタートアップの事例研究(1) モノづくり分野																
14	大分における中小企業・ベンチャー企業、スタートアップの事例研究(2) サービス提供分野																
15	講義のまとめ、サステナビリティと起業に関するこれから																
ア リ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○	事例研究、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、ディスカッション				エ そ 夫 の 他 の	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。									
	B:意見の表現・交換	○	など。														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(15時間) 興味ある中小企業・ベンチャー企業などを取り上げ、その成り立ちや歴史、現状や今後の戦略についての調査(15時間)															
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15時間)															
	想定時間合計	45															
教科書	・加藤厚海・福岡路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー伝統と革新、地域と世界』(有斐閣ストゥディア)有斐閣、2023年。																
参考書	・忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門ーベンチャーの創造を学ぶ』[新版](有斐閣ストゥディア)有斐閣、2022年。 ・トーマツベンチャーサポート『起業の教科書』日経BP社、2016年。 ・松田修一『ベンチャー企業(第4版)』(日経文庫ー経営学入門シリーズ)日本経済新聞社、2014年。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験結果						50%	○	○	○	○	○					
	授業参加姿勢(アイデア創出、課題対応など)						50%	○	○	○	○	○					
	上記のことをもとに総合的に評価します。																
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																
備考	地域創生教育科目																
リンク	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務経験	シンクタンク研究員等																
教員以外で指導に 関わる実務経験者の有無	○																
教員以外の指導に 関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々																
実務経験をいかした 教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K532M337		サステナブルビジネスと実践 (Sustainable Business and Entrepreneurial Practice)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2,3,4	経済学部	後期	木3	日本語		単独									
担当教員	氏名 渡邊博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702																
授業の概要	本授業では、サステナブル視点に基づき、中小企業やベンチャー企業、スタートアップに関する定義や概念、関連するイノベーションやアントレプレナーシップなどについてさらに理解を深めていきます。また、ベンチャー起業のビジネス的側面として、新しい事業機会、アイデアの育成、収益の仕組み、販売促進や市場開拓、差別化や事業の強み、資金計画などを認識したうえで、実際にビジネスプランを作成してもらいます。ビジネスモデルの構築とその事業可能性などについて考察しながら、様々な知識を用いてビジネスプランを考え、他者に説明する機会を設定します。場合によっては、ビジネスプランの実践を行うなど、本授業を自身のキャリアの一環として捉えてください。なお、大分の企業や金融機関、行政の方々などにもゲストスピーカーとして登壇いただき、課題の深掘りとアイデアを創出します。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)										
目標1	サステナブル視点のもと、イノベーションやアントレプレナーシップなどの起業に関わる概念を確認し、社会と関連づける。						1	2	3	4	5	6	7				
目標2	起業のビジネス的側面を把握する。						○										
目標3	ビジネスプランの作成を通じて起業やベンチャーを考える。						○		○								
目標4	作成したビジネスプランを他者に説明する。						○	○	○								
目標5	場合によっては、作成したビジネスプランを実践する。								○	○	○						
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)							4	1	3	1	1						
授業の内容																	
1	イノベーションとアントレプレナーシップ、サステナブルビジネスと現代社会における起業																
2	起業のビジネス的側面(1) 新しい事業機会とその評価																
3	起業のビジネス的側面(2) アイデアの育成																
4	起業のビジネス的側面(3) 収益の仕組み																
5	起業のビジネス的側面(4) 販売や市場開拓																
6	起業のビジネス的側面(5) 差別化や強み																
7	起業のビジネス的側面(6) 資金調達と資金管理																
8	起業のビジネス的側面(7) 事業計画書の作成																
9	ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性																
10	ビジネスプランの作成(1) 概要や事業の内容、優位性など																
11	ビジネスプランの作成(2) 市場把握、顧客やユーザーの特性など																
12	ビジネスプランの作成(3) 資金や費用、考えられるリスクなど																
13	作成したビジネスプランの発表(1) 自分の発表																
14	作成したビジネスプランの発表(2) 他者の評価																
15	講義のまとめ、サステナブルビジネスと起業などのこれからのあり方																
ラーニング	A:知識の定着・確認	○		ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、ビジネスプランの作成、プレゼンテーション、事例研究など。		エ		各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。									
ニング	B:意見の表現・交換	○				そ											
イン	C:応用志向					夫											
グ	D:知識の活用・創造					の											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	各テーマに関する文献、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などの検索と学修(30h)															
	事後学修	各テーマに関する学習の振り返りと理解(15h)															
	想定時間合計	45															
教科書	教科書は使用しません。必要に応じて関連資料等を配布します。																
参考書	・加藤厚海・福岡路・宇田忠司『中小企業・スタートアップを読み解くー 伝統と革新、地域と世界ー』有斐閣、2023年。 ・忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門ーベンチャーの創造を学ぶ』【新版】(有斐閣ストゥディア)有斐閣、2022年。 ・田所雅之『起業の科学ースタートアップサイエンスー』日経BP社、2017年。 その他、講義の中で適宜紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験結果						50%	○	○	○	○	○					
	授業参加姿勢(アイデア創出、課題対応など)						50%	○	○	○	○	○					
	上記のことをもとに総合的に評価します。																
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。																
備考	前期開講科目の「サステナブルビジネスと起業」を受講していると取り組みやすいです。																
リンク	URL																
担当教員の実務経験の有無	○																
教員の实務経験	シンクタンク研究員等																
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○																
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営、金融機関、行政等に関わる方々																
実務経験をいかした教育内容	産業分析や関連する資料収集の仕方などの説明。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K532M339		大分のものづくりと地域づくりII (Manufacturing and Community in Oita II)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2	経済学部	後期	月5	日本語		単独、オムニバス					
担当教員	氏名 渡邊博子 E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702												
授業の概要	大分地場企業の経営者や現場責任者などに登壇いただき、当該企業を事例として、今日までの歴史、技術や製品の特徴、マネジメントや組織運営などの現状と課題、経営資源の活用の仕方、発展戦略としてのイノベーションへの取り組み方や産官学等組織連携などについて把握します。また、当該企業と社会や地域との関係性、そこでの役割、制度や仕組みなどについても理解し、大分のものづくりや地域づくりを学びます。将来の進路を考えるきっかけとしてください。なお、この授業は、大分県雇用労働政策課とも連携をしながら進めていきます。												
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	地場企業の歴史、現状と課題などを通して、大分の産業や企業を知る。					○		○					
目標2	企業と社会との関係性、制度や仕組みなどへの考え方を通して、企業の特徴を理解する。					○		○	○				
目標3	マネジメントや経営資源の活用、イノベーションへの取り組み、産官学連携などの様子を通じて、大分の今後を考える。					○		○		○			
目標4	大分におけるものづくりや地域づくりへの理解を通して、自らの進路選択やキャリアプラン形成に活用できる。							○		○			
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						4		4	1	2			
授業の内容													
1	ガイダンス、大分県の産業や企業、地域との関わり方などについて												
2	(有) ビューティフルライフ												
3	KIHARA Commons (株)												
4	(有) 中村設備工業												
5	イジゲングループ (株)												
6	(株) ミカサ												
7	金融機関												
8	(株) エイビス												
9	新電力おおいた (株)												
10	T-PLAN (株)												
11	大分デバイステクノロジー (株)												
12	(株) オーイーシー												
13	(株) 大分からあげ												
14	九州ナノテック光学 (株)												
15	まとめと今後に向けて(上記は昨年度「イノベーション科学技術論」で登壇された企業名を掲載。企業や順番は変更することがあります。)												
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	○	・講義で学んだことをまとめてもらいます。					エ そ 夫 の 他 の	・双方向的なやりとりができるように工夫します。				
	B:意見の表現・交換	○	・講義内容に関する質疑応答など積極的に行ってもらいます。双方向的なやりとりをします。										
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	外部講師の所属組織や関連の産業等に関する調査(20h)											
	事後学修	授業に関するまとめや気づきの明確化(15h)、大分の産業や企業のまとめと自身の進路選択やキャリア形成への落とし込み(10h)											
	想定時間合計	45											
教科書	・教科書は指定しません。各講師が必要に応じて指示します。												
参考書	・各講師が必要に応じて指示します。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	各回のレポート	60%	○	○	○								
	期末試験あるいはレポート	40%	○	○	○								
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。												
備考	地域創生教育科目												
リンク	URL												
担当教員の実務経験の有無	○												
教員の実務経験	シンクタンク研究員等												
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○												
教員以外の指導に関わる実務経験者	企業経営者、現場責任者、プロジェクトリーダー等												
実務経験をいかした教育内容	技術や製品開発、マネジメントやイノベーションに関する手法、産官学連携や地域貢献等												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式												
K522M202	会計学 I (Accounting I)					学部基盤科目 経営メジャー系	対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態											
選択	2	2,3,4	経	前期	金4	日本語		単独											
担当教員	氏名 山根 陽一 E-mail y-yamane@oita-u.ac.jp 内線 7691																		
授業の概要	この授業では、企業が外部の利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する目的で実施している財務会計について学びます。「会計学入門」や「初級簿記」では、財務諸表を作成する際の複式簿記による技術的側面が中心であったのに対し、なぜそのような処理をしなければならないのか(理論的背景)、またどのような規則があるのか(制度会計)といった理論的側面を学習します。本格的に会計学を学ぶための橋渡しの内容(基礎)となります。																		
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7						
目標1	財務会計の基本的な用語や考え方を文脈に応じて適切に利用できる。						○	○											
目標2	損益計算書と貸借対照表の主要な項目について、関連する会計処理(仕訳、転記、科目残高の計算)を行うことができる。						○												
目標3	会計制度・会計処理の概要やその背後にある考え方を文章で論理的に説明できる。						○	○		○									
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)						7	2		1										
授業の内容																			
1	ガイダンス:授業のねらい・成績評価方法などの説明、会計学分野の全体像と学び方																		
2	財務会計の機能と制度:会計の意義と領域、財務会計の機能、企業会計への法規制																		
3	利益計算の仕組み:企業活動と財務諸表、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表																		
4	会計理論と会計基準(1):会計基準の必要性、会計基準の設定と問題点、演繹的アプローチの展開																		
5	会計理論と会計基準(2):企業会計原則の一般原則、会計情報の質的特性																		
6	利益測定と資産評価(1):現金主義会計と発生主義会計																		
7	利益測定と資産評価(2):発生主義会計の基本原則、資産評価の基準																		
8	現金預金と有価証券(1):資金運用活動と資産と収益、現金及び預金、有価証券デリバティブとヘッジ会計																		
9	現金預金と有価証券(2):キャッシュ・フロー計算書																		
10	売上高と売上債権:営業循環における収益認識、収益認識に関する会計基準、売上債権																		
11	棚卸資産と売上原価:棚卸資産の範囲と区分、棚卸資産の取得原価・原価配分・払出単価の決定・期末評価																		
12	有形固定資産と減価償却:固定資産の範囲と区分、有形固定資産の取得原価、減価償却、固定資産の期末評価																		
13	無形固定資産と繰延資産:知的財産と研究開発、無形固定資産、繰延資産																		
14	負債:負債の範囲と区分、引当金、納税義務と税効果会計、流動負債、固定負債、偶発債務																		
15	株主資本と純資産:純資産の構成、払込資本、組織再編、稼得資本、純資産の区分表示																		
フィードバック	A:知識の定着・確認	○ 授業前の予習(不明な点への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト(教員への質問等を含む)、授業後の復習(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入等を含む)		E:その他の		確認テストは、添削して返却します。資料は、配布するとともにMoodleにアップロードします。授業終了後、板書をMoodleにアップロードします。													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回の授業で取り上げる内容について教科書を確認する(14h)。																	
	事後学修	理解を問う確認テストに解答できるよう復習する(28h)。これまでの簿記・会計の学修との関係を考える(7h)。																	
	想定時間合計	49																	
教科書	桜井久勝(2025)『財務会計講義(第26版)』中央経済社(2025年3月発売)																		
参考書	中央経済社編(2023)『新版会計法規集(第13版)』中央経済社、ISBN9784502460715 佐藤信彦(2023)『財務諸表論の要点整理(第24版)』中央経済社、ISBN9784502474910 伊藤邦雄(2024)『新・現代会計入門(第6版)』日本経済新聞出版社本部、ISBN9784296120048																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	復習課題							30%	○	○	○								
	期末試験							70%	○	○	○								
注意事項	毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるよう、復習を怠らないようにしてください。																		
備考	本科目は中級レベル(2年次向け)ですが、入学時点で日商簿記検定3級以上を取得済みの人には1年次での履修を認めます。それ以外の人は「会計学入門」と「初級簿記」を履修した上で、2年次以降にこの科目を履修してください。																		
リンク	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532M320		会計学Ⅱ (Accounting II)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2,3,4	経	後期	金4	日本語		単独								
担当教員	氏名 山根 陽一 E-mail y-yamane@oita-u.ac.jp 内線 7691															
授業の概要	簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこでこの授業では、日商簿記検定2級(商業簿記)の内容のうち、「中級簿記」「株式会社簿記」で取り上げられなかった特殊論点を学習します。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	日商簿記2級商業簿記の特殊論点に関する記帳を行うことができる。								○							
目標2	連結財務諸表の構造を理解し、作成することができる。								○							
目標3	キャッシュ・フロー計算書の構造を説明することができる。								○	○						
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									9	1						
授業の内容																
1	ガイダンス(講義の進め方・成績評価について説明)、既習内容の総復習															
2	収益の認識基準(1):サービス業、収益認識の基本原則															
3	収益の認識基準(2):契約資産と債権、売上割戻															
4	本支店会計(1):本支店間取引・支店間取引															
5	本支店会計(2):決算手続、本支店合併財務諸表の作成															
6	連結会計(1):資本連結(連結財務諸表の基礎知識)															
7	連結会計(2):資本連結(支配獲得日の連結)															
8	連結会計(3):資本連結(支配獲得後1期目の連結)															
9	連結会計(4):資本連結(支配獲得後2期目の連結)															
10	連結会計(5):資本連結(支配獲得後2期目以降の連結)															
11	連結会計(6):成果連結(内部取引高と債権・債務の相殺消去)															
12	連結会計(7):成果連結(未実現損益の消去)															
13	連結会計(8):連結株主資本等変動計算書の作成															
14	製造業会計:勘定連絡、残高試算表、財務諸表															
15	キャッシュ・フロー計算書															
ラフィクニエング	A:知識の定着・確認	○		授業前の予習(不明な点への質問を含む)、毎週の授業開始時の確認テスト(教員への質問等を含む)、授業後の復習(記述問題、授業に関する質問・感想・要望の記入等を含む)												
	B:意見の表現・交換			エス夫の他の確認テストは、添削して返却します。資料は、配布するとともにMoodleにアップロードします。授業終了後、板書をMoodleにアップロードします。												
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	次回の授業で取り上げる内容についてテキストを確認する(14h)。														
	事後学修	理解を問う確認テストに解答できるよう復習する(28h)。期末試験に向けた学習を行う(7h)。														
	想定時間合計	49														
教科書	TAC簿記検定講座(2024)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版、ISBN97843001066570 TAC簿記検定講座(2024)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版、ISBN9784300106655															
参考書	TAC簿記検定講座(2025)『2025年度版 日商簿記2級 まるっと完全予想問題集』(2025年3月発売) TAC簿記検定講座(2025)『2025年度試験をあてるTAC予想模試+解き方テキスト 日商簿記2級』(2025年3、8、12月)発売															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	復習課題	30%	○	○												
	期末試験	70%	○													
注意事項	授業には電卓を毎回持参してください。毎回、授業始めに前回授業の理解を問う確認テストを実施します。解答できるよう、復習を怠らないようにしてください。															
備考	日商簿記2級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。なお、日商簿記2級商業簿記の出題範囲は、「中級簿記」(前期)、「株式会社簿記」(後期)、「会計学II」(後期)、合計3科目(6単位)の履修により満遍なく学習することができます。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
K532M323	原価計算論I (Cost Accounting I)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態							
選択	2	2,3	経	前期	木3	日本語		単独							
担当教員	氏名 加藤 典生 E-mail kato-norio@oita-u.ac.jp 内線 7695														
授業の概要	本講義では、製造業で行われている複式簿記(工業簿記)と有機的に結びついて実施される製品原価計算の理論と計算方法を学習します。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	日商簿記検定2級(工業簿記)および全経簿記上級(原価計算・管理会計)レベルの理解を目標としています。						○								
目標2	なお、2級取得を目指す学生は、中級簿記I・II、会計学IIの科目も併せて履修するようにしてください。						○								
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							10								
授業の内容															
1	個別原価計算の記帳体系、材料費会計														
2	労務費会計、経費会計														
3	製造間接費会計														
4	単純個別原価計算														
5	工企業の財務諸表、工場会計														
6	総合原価計算の記帳体系、単純総合原価計算														
7	工程別総合原価計算、組別・等級別総合原価計算														
8	仕損費と作業屑及び減損の処理(1)														
9	仕損費と作業屑及び減損の処理(2)														
10	連産品と副産物の処理														
11	標準原価計算(1)														
12	標準原価計算(2)														
13	標準原価計算(3)														
14	標準原価計算(4)														
15	まとめ														
ラーニング エッセンス グループ	A:知識の定着・確認	○ 講義した内容を練習問題で理解度を確認していきます。				エ そ 夫 の 他 の	学習内容によって、実務的な利用の仕方をご紹介します。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造	○													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	事前に配布したレジュメがあれば、その内容を確認し、関心がある箇所を図書館で調べよう(15h)。													
	事後学修	本講義では、復習が大切になります。会計科目は、その時にできても計算練習をし続けなければすぐに忘れてしまうからです。同じ問題を何回も解きましょう(30h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	プリントを配布します。なお、下記の参考書にある問題集(2級は4月中旬発売予定)は、両方とも授業で使用しますので、準備してください。両方の問題集とも、原価計算論IIでも使用します。														
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集 商業簿記・工業簿記2級 2025年度版』 実教出版(予定) 奥村雅史監修、高橋賢・坂口順也編著『全経簿記能力検定試験標準問題集 上級原価計算・管理会計』中央経済社														
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	課題	30%	○												
	小テスト	20%	○												
	定期試験	50%	○												
注意事項	電卓を必ず持ってくること。 プリントを綴じるためのB5サイズのファイルを用意しておくといよい。														
備考	初級簿記または、日本商工会議所簿記検定3級取得レベルを前提とします。														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
K532M324	原価計算論II (Cost Accounting II)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	2,3	経	後期	木3	日本語		単独					
担当教員	氏名 加藤 典生 E-mail kato-norio@oita-u.ac.jp 内線 7695												
授業の概要	原価計算を実施する目的には、財務諸表作成目的、価格計算目的、原価管理目的、予算管理目的、基本計画設定目的があげられます。原価計算論Iでは、主として企業外部の利害関係者に必要な会計情報を提供するための財務諸表作成目的としての原価計算の理解を深めてきました。これに対し、本講義では、主として企業内部の経営管理に有用な原価計算技法(日商簿記2級工業簿記、全経簿記上級原価計算・管理会計レベル)について学習します。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7						
目標1	製造業で行われている製品原価計算の応用的な理論と計算技術の習得を目指します。						○						
目標2	経営管理に有用な原価計算技術の習得を目指します。						○						○
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							8						2
授業の内容													
1	短期利益計画(1)												
2	短期利益計画(2)、直接原価計算(1)												
3	直接原価計算(2)												
4	予算管理(1)												
5	予算管理(2)												
6	分権組織の管理会計												
7	業務的意思決定												
8	構造的意意思決定(1)												
9	構造的意意思決定(2)												
10	部門別原価計算の基礎(1)												
11	部門別原価計算の基礎(2)												
12	部門別原価計算の応用												
13	ABC、原価企画												
14	BSC、品質原価計算、マテリアルフローコスト会計												
15	まとめ												
フィードバック	A:知識の定着・確認	○講義内容の確認のために、練習問題を行います。					エ そ 夫 の 他 の	練習問題を解かせるだけでなく、その計算結果がどのような意味を持つのかも講義していきます。					
	B:意見の表現・交換	○講義の中で、受講生同士で話し合う時間を設ける場合(理論的な箇所です)											
	C:応用志向	○実務的な利用方法も状況に応じて紹介します。											
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	事前に配布したレジュメがあれば、その内容を確認し、関心がある箇所を図書館で調べるようにしましょう(15h)。											
	事後学修	事後の学習が特に重要となります。それは、講義の中で覚えたつもりになっている知識が、時間とともにすぐ忘れてしまうからです。したがって、同じ問題を何度も復習するようにしましょう(30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	毎回プリントを配布します。なお、下記の原価計算論Iでも使用した参考書にある問題集(2級は4月中旬発売予定)は、原価計算論IIでも両方とも授業で使用します。												
参考書	『日商簿記検定模擬試験問題集 商業簿記・工業簿記2級 2025年度版』実教出版(予定) 奥村雅史監修、高橋賢・坂口順也編著『全経簿記能力検定試験標準問題集 上級原価計算・管理会計』中央経済社												
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	課題	30%	○	○									
	小テスト	20%	○	○									
	定期試験	50%	○	○									
注意事項	電卓を必ず持ってくること。 プリントを綴じるためのB5サイズのファイルを用意しておくといよい。色ペン(6色)使用するので、できればあった方がよい。												
備考	原価計算論Iと併せて履修することが望ましい。												
リンク	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式				
K521M203		初級簿記 (Elementary Bookkeeping)					学部基盤科目 経営メジャー系		対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態				
選択	2	1,2,3,4	経	後期	火2	日本語			クラス分け				
担当 教員	氏名 越智 学・山根 陽一 E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp (越智)・y-yamane@oita-u.ac.jp (山根) 内線 7700 (越智)・7691 (山根)												
授業 の概 要	会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。会計の書類を作成するための技術が簿記であり、日商簿記検定3級レベル（小規模企業を対象とした簿記）の内容は、ビジネスパーソンに必須の基礎知識であると言われています。また、会計学分野の中級・応用科目を学ぶ際には、簿記の基礎知識をすでに習得していることが前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定3級レベルの基礎的な計算技術を学習します。本講義の具体的な達成水準は、2月に実施される日商簿記検定3級の合格です（検定試験自体は、6月・11月にも実施されます）。本講義は、同検定試験の受験を強制するものではありませんが、学習の達成目標として意識し、達成度を測る道具として積極的に利用してもらいたいと考えています。												
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)						
目標1	簿記の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。						1	2	3	4	5	6	7
目標2	小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定3級レベル）を行うことができる。						○	○					
目標3													
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度（計10）							8	2					
授業の内容													
1	ガイダンス+「会計学入門」の補足(1)：商品売買④、現金・預金③												
2	「会計学入門」の補足(2)：帳簿の締切り												
3	期中の手續き(1)：手形の記帳												
4	期中の手續き(2)：その他の資産・負債①												
5	期中の手續き(3)：その他の資産・負債②、その他の取引												
6	決算の手續き(1)：未処理事項の処理、現金・預金の決算整理、貯蔵品の決算整理												
7	決算の手續き(2)：商品の決算整理												
8	決算の手續き(3)：貸倒引当金の計上												
9	決算の手續き(4)：有形固定資産の減価償却①												
10	決算の手續き(5)：固定資産の減価償却②、消費税の決算整理												
11	決算の手續き(6)：費用・収益の決算整理①												
12	決算の手續き(7)：費用・収益の決算整理②、法人税等の決算整理												
13	決算の手續き(8)：決算整理後残高試算表、財務諸表												
14	決算の手續き(9)：月次決算、精算表①												
15	決算の手續き(10)：精算表②、まとめ												
ア シ ミ ン グ の レ ベ ル	A:知識の定着・確認	○ 講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題（学生間の相談や教員への質問を含む）、授業後の復習課題（授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む）					日 商 簿 記 の レ ベ ル	日商簿記検定3級の学修内容を簿記一巡（初級簿記 専門教育科目）と帳簿組織（簿記の基礎 教養教育科目）に区分し、出題範囲を網羅する。					
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する（14h）。											
	事後学修	復習課題を解く（32h）。											
	想定時間合計	46											
教科書	桑原知之（2022）『日商簿記3級とおるテキスト（第3版）』ネットスクール出版。ISBN：9784781033112。 桑原知之（2022）『日商簿記3級とおるトレーニング（第3版）』ネットスクール出版。ISBN：9784781033129。												
参考書	ネットスクール株式会社（2025）『日商簿記検定模擬試験問題集3級（2025年度版）』ネットスクール出版。ISBN：9784781053172。TAC簿記検定講座（2025）『合格するための本試験問題集 日商簿記3級 2025年SS対策』TAC出版。ISBN：9784300112625。 実教出版企画開発部（2025）『2025年度版 日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記』実教出版。ISBN：9784407365245。												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	提出課題	25%	○	○									
	期末試験	75%	○	○									
注意事項	毎回、電卓を持参すること。授業は前期の「会計学入門」を前提に進めていきます。学修内容の定着に自信がない人は、事前の復習をお勧めします。												
備考	日商簿記検定3級の出題範囲を網羅したい人や、同3級の取得を目指す人は、教養教育科目「簿記の基礎」を併せて履修することが望ましい。												
リンク													
	URL												

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K532M329		中級簿記I (Intermediate Bookkeeping I)					メジャー専門科目 経営メジャー科目		対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択	2	2・3・4	経済	前期	水3	日本語		単独								
担当教員	氏名 森 美智代 E-mail 内線															
授業の概要	簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の内容(個別論点の前半)を学んでいきます。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	簿記一巡の手続きを説明することができる。								○	○						
目標2	損益計算書(報告式)と貸借対照表(勘定式)の構造を説明することができる。								○	○						
目標3	日商簿記2級商業簿記の個別論点の前半部分に関する記帳を行うことができる。								○	○						
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									8	2						
授業の内容																
1	ガイダンス(講義の進め方・成績評価について説明)、日商簿記検定3級の総復習															
2	簿記一巡の手続き【取引→仕訳帳へ仕訳→元帳への転記→決算手続:試算表作成→決算整理→精算表作成→損益計算書・貸借対照表】															
3	財務諸表:形式(報告式/勘定式)・二つの流れの決算手続・企業の財務諸表の開示															
4	商品売買(1):分記法・総記法、商品勘定・売上原価勘定と売上高勘定・三分法による商品の期末処理															
5	商品売買(2):精算表における商品の期末処理															
6	現金および預金:現金処理の取引・決算時における現金処理・小口現金の処理・当座預金の処理・銀行勘定調整表															
7	債権・債務(1):手形の復習・クレジット売掛金・電子記録債権・債務															
8	債権・債務(2):その他の債権及び債務(復習)・その他の債権の譲渡・債務の保証															
9	有価証券(1):有価証券の分類・株式の処理・時価評価の評価(洗替法・切放法)															
10	有価証券(2):公社債の処理・端数利息の支払いと受け取り・償却原価法															
11	有形固定資産(1):有形固定資産の減価償却方法(定額法・定率法)															
12	有形固定資産(2):200%定率法・均等償却への切り替え・生産高比例法															
13	有形固定資産(3):固定資産の購入(割賦・約束手形による割賦購入)と売却・除去・破棄・火災・建設仮勘定・改良と修繕・圧縮記帳															
14	引当金:貸倒引当金(復習)・その他の引当金(修繕引当金・退職給付引当金・商品保証引当金・賞与引当金・役員賞与引当金等)															
15	まとめ:これまでの講義のテーマについて練習問題をとおして理解を確認する。															
フィードバック	A:知識の定着・確認	○	毎回の授業開始時に行う小テスト(前回までの理解度確認)、授業中の練習問題、授業後の課題				エ	パワーポイント資料と課題資料の2種類の配布資料								
	B:意見の表現・交換						そ									
	C:応用志向						夫									
	D:知識の活用・創造						の									
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(14h)。														
	事後学修	宿題を解き、小テストや期末試験に向けた学習をする(32h)。														
	想定時間合計	46														
教科書	TAC簿記検定講座(2024)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版。ISBN:9784300106570。TAC簿記検定講座(2024)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版。ISBN:9784300106655。															
参考書	滝澤ななみ(2025)『みんなが欲しかった!簿記の問題集 日商2級 商業簿記(第14版)』TAC出版。ISBN:9784300115763。 桑原知之(2023)『合格するにはワケがある脳科学×仕訳集 日商簿記2級(第3版)』ネットスクール出版。ISBN:9784781015422。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	毎回の授業開始時に行う小テスト或いは出題課題		30%	○	○	○										
	期末試験		70%	○	○	○										
2024年度以前に「中級簿記」の単位を修得した人は、この科目を履修することはできません。																
注意事項	電卓を必ず持参すること。日商簿記3級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。毎回課題を課しますので、時間外学習は必須となります。また、原則として毎回、授業開始時に小テストを実施しますので、無遅刻・無欠席が望ましいです。															
備考	日商簿記2級商業簿記の出題範囲は、「中級簿記I(旧・中級簿記)」(前期)、「中級簿記II(旧・株式会社簿記)」(後期)、「会計学II」(後期)、合計3科目(6単位)の履修により満遍なく学習することができます。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K532M330	中級簿記Ⅱ (Intermediate Bookkeeping II)					メジャー専門科目 経営メジャー科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態				
選択	2	2・3・4	経済	後期	水3	日本語		単独				
担当教員	氏名 森 美智代 E-mail 内線											
授業の概要	簿記は企業経営を映し出す鏡です。経営者に限らず、自社の財政状態や経営成績を把握しておくことは重要なことであり、それを知るための唯一の方法が簿記です。したがって、初級・中級レベルの簿記を理解し習得することが企業に就職する者、あるいは企業を相手にする職種に就こうとする者にとって不可欠です。また、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」で問われるような上級レベルの内容を学習する際にも、初級・中級レベルの商業簿記の知識が前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記の内容(個別論点の後半)を学んでいきます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7					
目標1	日商簿記2級商業簿記の個別論点の後半部分に関する記帳を行うことができる。						○ ○					
目標2	会計上の利益と税法上の利益の差異、およびそれが企業会計に与える影響を説明することができる。						○ ○					
目標3	決算処理ができる。						○ ○					
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)							8 2					
授業の内容												
1	ガイダンス(講義の進め方・成績評価について説明)、「中級簿記」の総復習											
2	株式の発行: 株式会社・純資産・株式の発行・株式申込証拠金											
3	剰余金の配当と処分(1): 剰余金の配当と処分・会計処理・利益準備金の積み立て・その他資本剰余金の配当											
4	剰余金の配当と処分(2): 株主資本の計数の変動・株主資本等変動計算書											
5	リース取引(1): リース取引の分類・借手側の会計処理・売買処理(ファイナンス・リース)											
6	リース取引(2): 無形固定資産等と研究開発費: 賃貸借処理(オペレーティング・リース)・無形固定資産等・研究開発費											
7	外貨換算会計(1): 外貨建取引の会計処理											
8	外貨換算会計(2): 為替予約											
9	税金・課税所得の算定と税効果会計(1): 税金の分類・課税所得の算定・差異の発生と解消											
10	課税所得の算定と税効果会計(2): 税効果会計の対象・会計処理・将来減算一時差異											
11	課税所得の算定と税効果会計(3): その他有価証券評価差額金にかかる税効果会計・税効果会計の仕訳											
12	決算手続(1): 決算手続・精算表											
13	決算手続(2): 勘定の締め切り											
14	決算手続(3): 損益計算書と貸借対照表・月次決算											
15	まとめ: これまでの講義のテーマについて練習問題をおとして理解を確認する。											
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ 毎回の授業開始時に行う小テスト(前回までの理解度確認)、授業中の練習問題、授業後の課題				エ	パワーポイント資料と課題資料の2種類の配布資料					
	B:意見の表現・交換					そ						
	C:応用志向					夫						
	D:知識の活用・創造					他						
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する(14h)。										
	事後学修	宿題を解き、小テストや期末試験に向けた学習をする(32h)。										
	想定時間合計	46										
教科書	TAC簿記検定講座(2024)『合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版。ISBN:9784300106570。 TAC簿記検定講座(2024)『合格トレーニング 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版。ISBN:9784300106655。											
参考書	TAC簿記検定講座(2025)『合格するための本試験問題集 日商簿記2級 2025年SS対策』TAC出版。ISBN:9784300112632。 ネットスクール株式会社(2025)『日商簿記検定模擬試験問題集2級(2025年度版)』ネットスクール出版。9784781052175。 実教出版企画開発部(2025)『2025年度版 日商簿記検定模擬試験問題集 2級商業簿記』実教出版。ISBN:9784407365238。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回の授業開始時に行う小テスト	30%	○	○	○							
	期末試験	70%	○	○	○							
	2017年度に「上級簿記」の単位を修得した人、2024年度以前に「株式会社簿記」の単位を修得した人は、この科目を履修することはできません。											
注意事項	電車を必ず持参すること。日商簿記3級合格レベルの知識があることを前提として授業を進めていきます。毎回宿題を課しますので、時間外学習は必須となります。また、原則として毎回、授業開始時に小テストを実施しますので、無遅刻・無欠席が望ましいです。											
備考	なお、日商簿記2級商業簿記の出題範囲は、「中級簿記Ⅰ(旧・中級簿記)」(前期)、「中級簿記Ⅱ(旧・株式会社簿記)」(後期)、「会計学Ⅱ」(後期)、合計3科目(6単位)の履修により満遍なく学習することができます。											
リンク	URL											